

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	災害復興制度研究所
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 復興思想の普及・制度化を進める。	→災害復興制度研究所紀要『災害復興研究』の毎年度の発行。福田徳三（関東大震災で初めて人間復興を提唱）著作の翻刻。復興思想の体系化・制度化・一般化に関する論文・普及書の刊行数。復興思想の普及・制度化に関連するイベントの開催数。	B	A			
2. 「災害復興基本法」の素案を発表し、この基本法をベースに、さらなる被災者支援の制度充実に向けた提言を続ける。	→「災害復興基本法」素案の発表。「被災者総合支援法案」の策定と発表。首都直下地震に備えた震災疎開者支援策の発表。	B	B			
3. 授業科目「災害復興学」を継続的に開講する。	→2011年度以降の共通教育プログラムの正課科目としての「災害復興学」の開講。「災害復興学」の教科書の作成。	B	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない
	(理念・目的) 「復興思想」の原点を「人間復興」に求め、その実現を東日本大震災の復興に役立てることを目的として活動を行っている。 (説明) 東日本大震災の発生により素案として提案した「災害復興基本法」にもとづく諸提案『東日本大震災復興に向けての提言集』を緊急発行し、「人間復興」を復興の基本理念とらえ、それを今回の大震災の復興で実現することは、本研究所の理念・目的に一致している。
★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 東日本大震災の発生により、本研究所の活動が種々報道され、その研究所の存在が文部科学省の私学部長などにも高く評価されたり、理事会のメンバーからも高く評価されるようになった。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 東日本大震災の発生により一時期低迷していた受講生が増加した。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

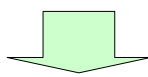
理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	現在進行中の研究・調査を続行し、その成果を公表することで、本研究所の存在意義を大学内はもちろん社会に発信するが、そのための財政的裏付けが必要となっている。
小項目0.0.2	上記の成果報告は、本研究所の学内・社会での認知に繋がるので、より多くの報道機関等への露出度を高める必要がある。
★ 小項目0.0.3	上記の2つの小項目を実現することで、授業そのものの学生間での認知が進むと考えるだけでなく、学生間に真の復興が「人間復興」にあることを知らしめることができると考える。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価】(2)改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目0.0.1		
小項目0.0.2		
小項目0.0.3		
その他		

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目0.0.1		
小項目0.0.2		
小項目0.0.3		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 「現状の説明」小項目0.0.3の、受講生の増加は、大震災の発生が要因とはいえ、評価できますが、同項目の現状説明になっているでしょうか。いま少し、補足的な説明があるとよいと思います。
- 「1. 復興思想の普及・制度化を進める。」の進捗評価がAとなっているため、その客観的な内容を裏付ける事項の記載が必要です。全般的に東日本大震災関連の記述が多いのですが、発生した日時が3月11日と2010年度内であるとはいえ、それを2010年度の現状報告とするのは好ましくないと思われます。特に小項目0.0.3に関しては2010年度の履修状況とは無関係と思われます。震災と切り離れた客観的な説明を求めます。
- 『東日本大震災復興に向けての提言集』を緊急発行され、その活動が評価されています。
- 小項目0.0.1の(理念・目的)は、昨年度記述いただいたような災害復興制度研究所の普遍的な理念・目的を記述いただければと思います。従って、小項目0.0.2も現記述に加え、理念・目的が周知・公表されているかについて記述してください。また、小項目0.0.3については、理念・目的を定期的に検証しているかどうかという項目です。学生数によって検証されているのであればそのような記述が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目0.0.1
基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」
達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」
- 小項目0.0.2
基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」
達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」
- 小項目0.0.3
基盤評価：なし
達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	特に無し。
---	-------